



**「わがむら」発行の趣旨** 私塾・長善館は、燕市の粟生津地区にありました。そこに住む私たちには末永くこの遺産を守り、後世に伝えていく責務があります。そこで、地域の大人も子どもも「地域の宝」である長善館をよく理解し、誇りに思っ大切にしていくために、本紙『わがむら』を年2回発行しています。

# 「長善館友の会」設立!

～200名を超える会員の半数以上が粟生津地区と四箇村地区の地元住民～



設立総会当日の来賓 鈴木力燕市長・中野目徹筑波大学教授・仲野孝教育長と 星野昭英会長・河合利勝副会長及び友の会役員

平成29年9月30日、「長善館友の会」が誕生しました。設立総会では、星野昭英会長があいさつで「長善館は粟生津地域や燕市にとってかけがいのない文化遺産。これまで、粟生津地区協議会や自治会などで長善館の理解と保存・継承を発信してきたが、まだまだ不十分。今後は、友の会の設立を機に行政と地域が連携して保存・継承並びに活用の機運を一段と高めていきたい。」と力強く話されました。

また、来賓の鈴木市長は「200名を超える会員

が集まり、予想以上の数で大変喜ばしいことです。また、燕市外及び県外の会員も多く、長善館が広く知られていることを再認識しました。友の会の設立により、長善館の理解者が更に増えていくことを期待しています。」と祝辞を述べられました。

総会後の設立記念講演会では、筑波大学の中野目徹教授が『明治20年、長善館存続をめぐるドラマ』と題して2代館主楊軒先生、息子の柿園先生の日記を解説されて塾の存廃をめぐる内情を話されました。

なお、総会では会則、役員、事業計画、予算などが審議・承認されました。

事業内容は会報発行や催し物案内・研修会などで、今年度は早速12月に「諸橋轍次記念館」の視察研修が行われました。

さらに、老朽化が懸念されている長善館及び史料館の整備促進も事業の中に盛り込まれました。



講演される中野目徹教授



**「長善館友の会」への入会は 随時受け付けています!**

申込先は、事務局の長善館史料館 ☎0256-93-5400 です。年会費 500 円。史料館入館無料など会員特典もあります。



# 粟生津の子どもたちが学ぶ 長善館の歴史と精神！

粟生津地区協議会では子どもの頃から地域の宝「長善館」と触れ合い、歴史や精神を知ることによって保存・継承につなげていきたいと、小学生や保育園児を対象に長善館活動を行っています。今年度の様子を紹介します。



## 第3回「長善館の講義体験と学習発表会」

### 第1部 講義体験

今年の「漢詩」の講義は **論語**から『義を見て為さざるは **勇無きなり**』



粟生津小学校3年生を対象に行っている「長善館の講義体験と学習発表会」は3年目を迎え、11月14日に行われました。粟生津地区協議会の今井文幸会長による講義は「国語」「漢詩」「修身」の3限で、今回の漢詩では孔子の「論語」を採り上げて教えました。長善館では初代の鈴木文臺をはじめ代々の先生が塾生に最初に講義したのが孔子の教えだったことから、子どもたちも孔子の説いた次の言葉の解釈に取り組みました。

- (1) 見義不為 無勇也
- (2) 己所不欲 勿施於人 ⇨ 己の欲せざるところ 人に施すなかれ

### 第2部 学習発表会

### 6グループで調べ学習の成果を発表

3年生は6つのグループに分かれて、長善館の「歴史」「生活」「先生」「良寛とのつながり」「塾生」「粟生津小とのつながり」のテーマで発表しました。紙芝居のようにして説明したり、クイズを出したりと工夫した発表で、史料館の倉橋忠夫館長さんからお褒めの言葉をいただきました。なお、指導くださった担任の太田敦子先生に感謝申し上げます。



### 新潟テレビ21『これ！新潟自慢』で放映

今回の講義体験と発表会の様子をテレビ局が取材して広く県内に放映してくれました。インタビューされた子どもたちは「長善館の心が今でもつながっていることがわかった」「たくさんの人に教えてあげたい」と答えていました。





# 第2回「保育園児と老人会の長善館かるた会」



## 長善に 歓喜飛び交う かるた会

粟生津地区協議会主催の「長善館かるた会」が11月9日に行われました。粟生津保育園の年長児16人と地元5地区の老人会代表選手が熱戦を繰り広げました。1回戦は3対3の「つばめっ子かるた」、2回戦は団体戦「ジャンボつばめっ子かるた」、3回戦は3対3の「百人一首の坊主めくり」。この日に向けて練習を重ねたハチマキ姿の園児たちの気合に、お年寄りは圧倒された様子で感服していました。



結果発表します。1回戦は園児の5グループ全部が勝って、5対0で園児チームの勝ち！  
 2回戦は27枚対17枚で園児チームの勝ち！  
 3回戦はお年寄りの5グループ全部が勝って、5対0でお年寄りチームの勝ち！以上の結果、園児チームが2勝1敗で優勝！おめでとう！





# シリーズ 長善館 Q&A NO.7

長善館に関する質問に対して、分かりやすく説明していきます。参考文献は『越北の鴻都 長善館』『私塾の近代』『長善館餘話』など長善館に関する史料です。子どもたちも読めるようにフリガナを付けています。

## 質問⑩ 長善館における塾生の経費の負担額について教えてください。

江戸時代の塾や寺子屋の師匠は、地域の人々から尊敬されていました。師匠もまた子弟を立派な人間に育てることに誇りをもっていました。

たとえ赤貧洗うが如くであったとしても、淡々として聖賢の道を説いて、人格の育成陶冶に励んだのです。金銭が目的ではありません。だからこそ多くの信頼と尊敬を集めることができたのです。



初代館主・鈴木文臺も同様な考えで長善館の経営にあたったものと思われまます。文臺が亡くなった明治3年の記録を見ると、それが分かります。

- 東脩（入学金）は決まった定めはない。
- 年中祝儀は、年始金一朱、上巳（3月3日）一朱、端午（5月5日）二朱、中元（7月15日）一分、重陽（9月9日）一朱、歳暮二分とするが、必ずしもこの通りでなくてもよい。

つまり、東脩（入学金）はいくらでもよいですよ、祝儀（月謝・授業料に相当する）は目安を示しますが、これ以上でも以下でもよいですよ、といっています。ちなみに、示された祝儀（月謝・授業料）を合計しますと、年間1両1朱で1円6銭2厘5毛（※注釈）となります。

なお、明治6年に県で示した授業料の規定では、月謝は資産の程度により上等戸は12銭5厘（年間1円50銭）、中等戸は7銭5厘（同90銭）、下等戸は3銭7厘5毛（同45銭）でしたので、長善館の祝儀は中等戸を少し上回る程度と考えられます。

このほかに寄宿料も徴収されたと思いますが、記録には記されていないので分かりません。

- （※注釈）明治4年に金1両は1円と定められました。江戸時代は1両=4分、1分=4朱でした。したがって、1分は1両の4分の1で25銭、1朱は1分の4分の1で6銭2厘5毛ということになります。



明治時代のお金

その後、明治25年に3代館主となる鈴木彦嶽が東京遊学から帰ってきたのを機に、「長善館規則」を改正します。それには、次のようになっています。



3代館主・鈴木彦嶽

- 東脩は1円とする。これは入学の際に納めること。
- 授業料は1か月50銭とする。月の15日を限界として、その前後に出入りする者は半額を納めること。
- 塾生全体に係る費用（炭・油・教授上需要品の類）。
- 寄宿生の食糧は日割り計算で、1か月およそ2円とする。ただし、物価の高低により増減がある。
- 授業料及びこれらの費用は7月30日と1月19日の2度に分けて納めること。

同じ明治25年に、県でも市町村立小学校授業料規則を定めて従来の学資規定を改定し、尋常小学校では1か月金2銭以上30銭以下、高等小学校では金10銭以上50銭以下としました。

公立学校では、市町村費から同じくらいの補助金が出ていることから見れば、長善館の授業料は決して高いとはいえず、営利を目的としていないことが分かります。

しかし、保護者にとっては、授業料は大きな問題でした。明治20年は米1升が5銭、明治25年は7銭でした。反収が少ない上に、自作農階層が少なく、多くは零細農民でした。

公立小学校すら出せない家庭もあった時代に、寄宿しながら学問をさせてもらった長善館の塾生たちは、本当に幸せだったといわざるを得ません。



明治時代の働く農民の様子